

基礎断熱打ち込み施工要領について

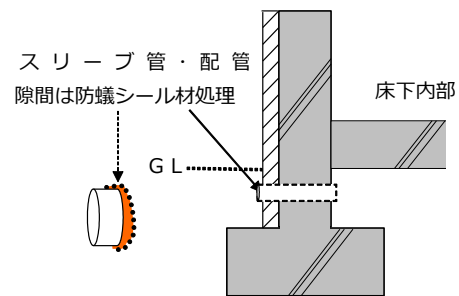
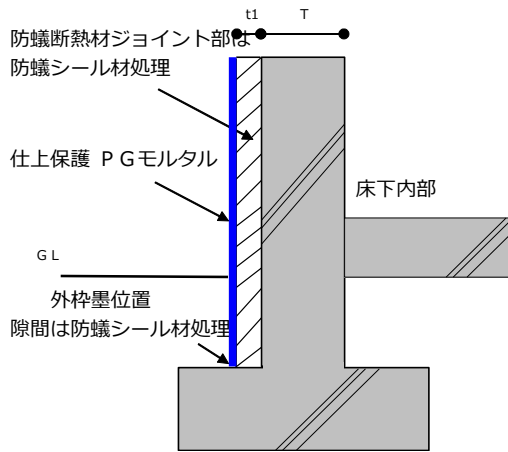
シップス・ジャパン株式会社

基礎断熱の施工要領について、下記の通りご案内いたします。なお、地区の業者によって施工方法の多少の違いはあるかと思いますが、実際の施工については、その地区の業者と話し合っ
決められた方がよろしいかと思ひます。

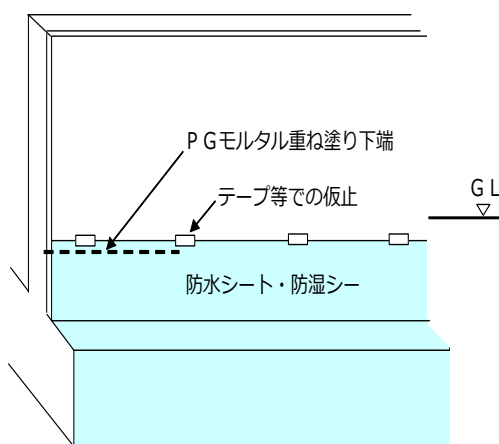
基礎断熱打ち込み施工要領

1. ベースコンクリート打設後、基礎芯墨を出す。
2. 同上芯墨より $T/2 + t_1$ (基礎巾の $1/2 +$ 断熱材厚み) の位置に外枠墨を出す。
3. 同上外側型枠を設置
4. 防蟻断熱材建て込み
 - ・鋼製型枠等の場合
防蟻断熱材を型枠にガムテープ等で仮止めすると作業が楽になります。
型枠止めのセパレーターは断熱材の厚みを考慮して発注してください。($T + t_1$)
 - ・コンパネ等の型枠の場合
防蟻断熱材をプラスチック釘等で型枠に仮止めすると作業が楽になります。
セパレーターは $T + t_1$ (基礎巾 + 断熱材の厚み) の長さをご用意ください。
なお、断熱セパを使用されるとより良いです。
5. 防蟻断熱材のジョイント部分は指定の防蟻シール材にて必ずシールしてください。継ぎ目は蟻道を形成しやすい場所になります。
6. 以降は通常の型枠建方と同様です。
7. 型枠脱型後、防蟻断熱材の継ぎ目等に隙間が生じている場合や配管スリーブ等で隙間が生じた場合は、指定の防蟻シール材にて補修してください。大きい隙間の場合は防蟻断熱材の端材を隙間の幅に合わせて加工し、指定の防蟻シール材を使って接着補修してください。
8. 仕上げには AFM JAPAN 社推奨の P G モルタル (スチライト工業社製) をおすすめします。
10 年のクラック保証が付いた樹脂モルタルになります。
9. フラット 35 の仕様書にも注意点等記載されていますので、ご参照ください。

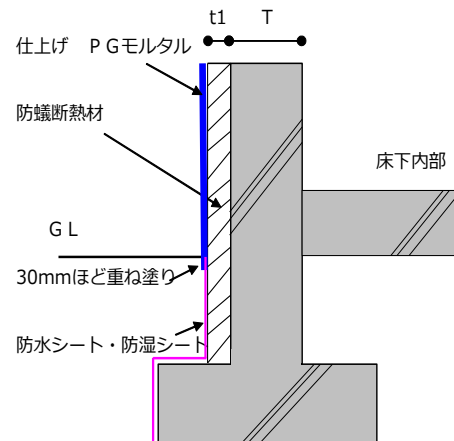
- * 断熱性能劣化防止や防蟻剤の溶脱をさけるため、断熱材外周部に防水シートや防水モルタル等で養生してください。
- * できるだけベースコンクリートをフラットにすると、断熱材同士を付き合わせたときに隙間ができにくく建て込みが楽になります。
- * 打ち込みによる施工をおこなってください。後貼りの場合、断熱材とコンクリートとの接着面に隙間が生じやすく、蟻道の原因になります。
- * 指定の防蟻シール材の施工要領は別紙の通りになります。



※防水シート・防湿シートの施工(深基礎の場合)



シート上端をテープ等で仮止め、P Gモルタルを30mmほど重ね塗りして押さえる



シート上端をテープ等で仮止め、P Gモルタルを30mmほど重ね塗りして押さえる